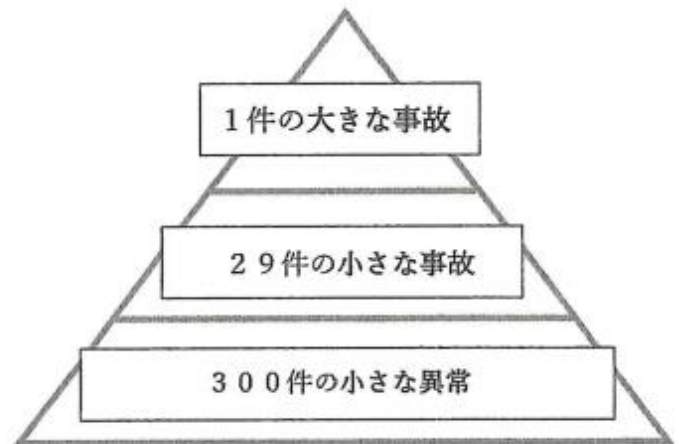


大事は小事の積み重ね！

ハインリッヒの法則という言葉があります。
 この法則は、アメリカの研究者が発表したもので、重大な事故が発生した際、その背景には29の「小さな事故」があり、さらにその背景には300のヒヤリとするような小さな「異常」がある、という内容です。つまり重大な事故には300もの小さな予兆が存在するのです。

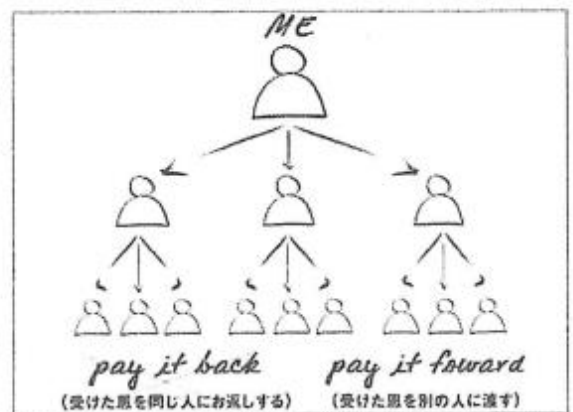


この法則をみなさんの生活の中に置き換えて考えてみてください。

例えば、ある日、友だちに軽い気持ちで悪口を言ったとしましょう。その時は大したことはないように思えても、同じような言動が繰り返されると、相手によっては大きな負担となってしまいます。「ちりも積もれば山となる」ということわざがあるように、日常の些細な悪口や行動も、積み重なると重大な事故に繋がってしまいます。逆に重大な事故を防ぐには、もとになる「小さな事故」や「異常」を発生させなければよいのです。些細なことでも、皆さんが相手のことを思って行動することで、事故を減らし、誰かを幸せにすることができるのです。

「もし自分の手でより良い世界に変えたいと思ったら、何をする？」

この問いは【ペイ・フォワード 可能の王国】という映画で、中学1年生の主人公が社会の先生に与えられた課題です。主人公の解答は、自分が受けた善意や思いやりを、その相手に返すのではなく、別の3人に渡す「ペイ・フォワード」という考えでした。主人公から恩を受けた3人が、それぞれまた別の3人に恩を渡し、その思いやりの連鎖が作中で多くの人々の人生を良い方向に導きます。



小さな思いやりの積み重ねこそ、より良い世界のための第一歩